を得て具に發語せんと思ふ所也、此所にイバヌシカといふ蝦夷人あり、此イバヌシカは赤人の言語を能習ひ、通詞をする也、依て赤人より名をつけてホヲナンセといふ、此シヤルシヤムより僅北方にゆき、ヒンヲヘツといふ所あり、此處に瀧あり、○略中蝦夷地第一の大瀧也といへり、此所までは當島の西浦にて、海上も靜なり、是より東浦に廻れば、實に荒島にて、波浪も高く、潮汐の流も早くして、少し風あれば通船もなり難く、此ヒンヲヘツより東方凡十里程に、モシリハツケといふ處に燒山あり、此燒山の裾通、東南に向て搔き送り、一日の海路をへて、トウシルヽといふ所にいたれば、古碇一頭あり、是は寛文十二年壬子、勢州の船志摩國を開帆して難風にあい、翌年七月、初て一國にいたるといへり、則此處也、天明丙午年○六年まで一百一十五年を經たり、此說三國通覽にも載たり、三十日の旅行を經て、西南の地に至るといふ、爰を以て島の廣き事を考ふべし、此邊は海豹海鹿至て多し、○略中

ウルツプ島の事

一ウルツプ島は、一名獵虎島とも唱ふ也、海獸に獵虎といふ獸、此嶼の周廻の海中にある故に、獵虎島ともいひ、又ウルツプ島ともいふ也、ウルツプは魚にて、此島の周廻の海中に出產す、此魚形鱒のごとく、肉の色至て赤く、味ひ亦美也、扨此島の西浦に、モシリヤといふ所有、予ヱトロフ島より涉海して此處に著船す、此所に海苔の名產有、其品日本若布のごとく、香味ともに至て美し、又海膽多くあり、獵虎是を好て食する也、同島にタブケワタラといふ島あり、モシリヤより北方に僅に隔たる所なり、此處に黃金の山色あり、其山の體を能糺し見るに、隙間（ヒアイ）とて金山の曼ありて、甚だよき寶山となるべき也、此海濱を北に過れば、セクツといふ所あり、海岸の巖頭より溫泉湧出て、瀧と成て直に海中に落る、予數日の旅行の間に浴せざれば、此溫泉を浴せり、此セクツを磯邊を北方にゆき、西の海中に離れ、ウツといふ岩島あり、此岩島至て險阻也、數十丈の巖頂に、巽島